

序

胸部X線写真を多数読影し、CTと比較しながら学んでいくと、かなりの読影力がつくし、自信もついてきます。しかし中には、直感的には異常と思われないが、正常とも言い切れない所見が混在しています。良く見ると変形している肋骨であったり、大きな乳首であったりして、ほっとすることもあります。うまく説明できないこともあり、心のすみに引っかかって残ります。

ちょうど100年前にドイツ語の初版が出版された有名な著書に“Borderlands of normal and early pathologic findings in skeletal radiography” というのがあります。間違いなく正常、間違いなく異常との間のgray zoneをthe borders（境界）やthe borderlands（どっちつかずの領域）としてまとめてあります。このgray zoneの中にはnormal variation, anomaly, 軽微な異常等多数のものが含まれ、骨に関しても相当数あります。胸部X線写真でも肋骨を含め、多くのgray zoneが存在します。胸郭から外れるものもありますが、実際の読影には困るものも含まれます。さらに体表の異物から始まり、軟部組織や心大血管系を含め、多くの“gray zone”があり、これらのある程度知っておくことは大切で、診断の誤りを減らし、不要な検査を省くことにもつながります。

今回、ここにまとめたものが全てとは思わず、更なる検討が必要とは思われますが、一例でも読んで下さった方々のお役に立てればと考えています。

2010年3月

櫛橋 民生